

# 1 国語

\*\*\* 開始の合図があるまで、開いてはいけません \*\*\*

試験が始まるまで、下の【注意すること】を読んでおいてください。

## 【注意すること】

- 問題用紙のページは13ページまでです。解答用紙が1枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 試験時間は、50分です。
- 印刷の見えにくい場合やページがぬけている場合は知らせてください。  
そのほかの場合は、質問を受けません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴムです。

中学一年生の晴美のクラスでは、合唱コンクールを二週間後に控えています。そこで、晴美の提案で朝練を始めることになりました。

晴美は、すでに曲は終わっているのに、まだ音楽が流れているような気がしていた。音楽が自分の体の中で **a** たゆたつているのだろうか。それともクラスの空気の中でなにか。きらめく余韻の微粒子が、そこここに **A** タダヨつでいる感じだつた。

もつとひたつていたかつたのに、\*<sub>1</sub> **a** 岳の登場で余韻は蹴散らかされた。相変わらず岳は、前向きな **B** 雰囲気をぶちこわす奴だ。

高揚感から一気に弛緩した空気に変わり、いつたん後ろに下げた机をもとに戻そうと、机を引きずる生徒も出始めた。せつかく、初めて合唱らしい合唱になつたのに、こんなふうにしまりなく、ずるずると練習が終わるのは良くない。

指揮者の早紀は、終わりの挨拶をするでもなく、明日のことを言うでもなく、ただその場に突つ立つて、困ったように目を泳がせている。

晴美はサッと早紀の横に出て、声を張り上げた。

「みんな、朝練初日、お疲れ様でした。明日もやるから、また頑張ろうね！」

\*<sub>2</sub> キンタ、了解

他にもはーいとか、おうとか、ポジティブな返事がそこかしこから聞こえた。<sup>1</sup> 晴美が早紀を見ると、ホツとしたように微笑んでいる。なんだかイラツとした。

自分も机を戻そうと動きかけた早紀を、晴美は呼び止めた。「ねえ、水野さん」「はい」

ついきつめの口調になつてしまつたのか、早紀は気をつけの姿勢をしている。

「水野さんは指揮者なんだからさ。練習の始めとか終わりとか、もう少し仕切つてほしいんだよね」

「う、うん」

「早紀はうつむき加減になつて、晴美を上目づかいで見上げた。「涼<sup>りょうま</sup>万がまともに歌つてくれたおかげで、せつかくいい感じに盛り上がりでも困るし。指揮者なんだから、みんなをまとめないと」

そんな言い方をすると、早紀がますます萎縮していくのは分かつていて、**C** ナゴやかに伝えなきやと思つていて、晴美の口から飛び出した言葉は想定外につんけんしていた。上目づかいだった早紀の目が、スローモーションで下に落ちていく。

「ごめんなさい」

早紀はしおれた案山子みたいに、肩を落とした。これではまるで晴美が早紀に説教をたれていますか、いじめているみたいに見える。「説教」は **b** あながち間違つてはいいけれども。

晴美がちらちらっと周囲をうかがうと、こちらを **D** チュウシしている涼万に気づいた。晴美はやや **c** うろたえた。

さつき合唱が終わつたとき、晴美はまつさきに最後列にいる涼万を振り返つた。あのときも涼万の目線は早紀に注がれ、何やら杰スチャーで会話しているようだつた。心に小さくひつかつていて、その光景が思い出された。

「ちよ、ちよっと、あやまらないでよ。ま、わたしも、もちろんクラスを盛り上げていくけどさ。水野さんも頑張つてつてことだよ」

と、すかさずフォローにまわつた。早紀は決意するように下くちびるをかむと、まつすぐ晴美を見つめた。目の奥に力が宿つてゐる。

「うん、分かった。ありがとう」

離れていく早紀の華奢な後ろ姿を見ながら、小首をかしげた。

あの子、おとなしすぎると思つていたけど、<sup>2</sup> そうでもないのかな。ま、指揮をするのは、確かにうまいけど。でもなあ……。

晴美は指揮者を決めたときのことを思い出して、くちびるを突き出した。あごに梅干しみたいなしわが寄る。【A】

本当は自分が指揮をしたかったのだ。みんなの前に立つて指揮棒を振りたかった。目立ちたがり屋な性分の、格好の役目だ。適役だとも思う。そう、かなり眞面目にやりたかったのだ。

あれは、夏休みに入る前の音楽の授業のときだつた。合唱コンクールの自由曲を決めるのと同時に、指揮者、伴奏者も選ぶことになつた。伴奏者は音心だけが立候補してすんなり決まつたが、指揮者は誰も手を挙げなかつた。

音楽の宮下先生が教卓を指でつつきながら、

「誰か指揮者やつてみたいつていう人はいないの？」

とクラスを見わたした。反応がない。

晴美の席は一番前だつた。脈がとんとん速く打つのが分かる。手を挙げればすむことなのに、挙げられない。ふだんの晴美なら、考えるより先に行動しているのだが。【B】

よりによつて一番前の席だから、後ろの様子が分からぬ。躊躇してゐるうちに、他の誰かが手を挙げてしまふのではないかと、気が気でなかつた。誰かひとりでも立候補すれば、すんなり決まつて

しまうに違ひない。

晴美は思い切つて後ろを振り向き、ぐるりと様子を見わたした。みんな先生と目を合わさないよう、ややうつむき加減なのが分かる。

「困つたわねえ」

宮下先生の「困つた」は、クラスのことを考えてと、いうよりは、さつさと決めて授業を進めたいのに、という気持ちがにじみ出ている。休みが多いから、今日は猛スピードで授業を進めたのだろう。

「やる気があればいいのよ。やる気が」

宮下先生の投げやりな言葉は、かえつて晴美を勇気づけた。

やる気があればいいんだ。それなら出来る！【C】

晴美は腕を机から浮かした。自分の腕なのに、鉛みたいに重たかった。そのとき、

「先生、さすがにやる気だけじやまざいと思います。音楽性がないと」

音心が珍しく発言した。鉛の腕は簡単に机に着地した。

「ま、そうよね。じゃ、どうしよ。んー。このクラスで吹奏楽部の人ついていたつけ？」

3 まづい展開になつてきた。晴美は両こぶしを握つた。

どうして、音楽性イコール<sup>3</sup> 吹部になつちやうわけ？ 確かにうちの中学にはコーラス部がなくて、音楽系の部活つていえば吹部だけだけど。部活だけで決めるつていうのはどうよ？

不満がぐるぐると頭をかけめぐる。

晴美、いいから早く手を挙げろ。今ならまだ間に合う！

脳は命令しているのに、音心の言つた「音楽性」がまるでどこかの神経にひつかかつてしまつたみたいに、鉛の腕は持ち上がらない。やりたいことをやりたいと言えない自分。こんな<sup>4</sup> ありえない自

分に会うのは初めてだ。【D】

だけど、音楽性なんて言われちゃうと……。

「あれ、吹部って井川くんだけ？ 井川くんは伴奏者だし、困った

な」

宮下先生がまたぼやいた。すると、

「はい」

か細くて透明な声の矢が、晴美の背中に突き刺さった。

「ああ、水野さん。吹部だったわね。あなた、指揮やつてくれない？」

出来るでしょ？」

宮下先生がぐいぐい攻めていく。しばらく間があいた。晴美は

《注》

\* 1 岳 : 晴美の幼なじみ。後出の「早紀」「涼万」「音心」は晴美のクラスメイト。

\* 2 キンタ : 晴美のあだな。

\* 3 吹部 : 吹奏楽部のこと。

問一 波線部 A 「タダヨつて」 B 「霧囲気」 C 「ナゴやかに」 D 「チュウシ」 E 「性分」について、カタカナは漢字を、漢字は読みをひらがなでそれぞれ答えなさい。

問二 二重傍線部 a 「たゆたつている」 b 「あながち」 c 「うろたえた」の本文中における意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |                    |                 |                  |
|--------------------|-----------------|------------------|
| <b>a</b> 「たゆたつている」 | <b>b</b> 「あながち」 | <b>c</b> 「うろたえた」 |
| ア 輝いている            | ア 少し            | ア あわてた           |
| イ 摺れ動いている          | イ 絶対に           | イ 腹を立てた          |
| ウ 吸いとられている         | ウ 必ずしも          | ウ 悲しくなつた         |
| エ 生まれている           | エ とりあえず         | エ 気まずくなつた        |

机の上で両手を握り合させた。

出来ないって言つて。無理つて言つて。

祈るような気持ちで念力を送つた。

「……はい」

早紀の言葉に、宮下先生だけでなく、クラス中に安堵の空気が流れた。晴美だけが、早紀の声の矢のせいなのか、胸に開いてしまつた小さな穴がしきつと痛んだ。【E】

（佐藤いつ子『ソノリティ はじまりのうた』）

6 胸に開いてしま

問三 傍線部1 「晴美が早紀を見ると、ホッとしたように微笑んでいる。なんだかイラッとした」とあるが、このときの晴美の気持ちを、次のように説明しました。字数に合わせて空欄に言葉を補いなさい。

I (三字) という立場なのに、

II (五字以上十字以内) ないで

III (五字以上十字以内) している早紀に対しても立ちを感じている。

問四 傍線部2 「そうでもないのかな」とあるが、晴美がこのように思ったのはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「みんなをまとめないと」と晴美に言われ、下くちびるをかむ早紀の姿に、自分に対する強い反発を感じたから。  
イ 「わたしも、もちろんクラスを盛り上げていく」と言う晴美をにらんだ早紀に、負けず嫌いな一面を感じたから。  
ウ 「水野さんも頑張つて」という晴美をまつすぐ見つめて「分かった」と答えた早紀から、強い決意を感じたから。  
エ 「頑張つてつてことだよ」とごまかす晴美のずるさについて何も言わない早紀に、プライドの高さを感じたから。

問五 傍線部3 「まづい展開」とあるが、(1) どのようなことが(2) なぜ「まづい」のですか。それぞれ十五字以上二十五字以内で説明しなさい。

問六 傍線部4 「ありえない自分」とあるが、「ありえない自分」を身体の一部を用いてどのように表現していますか。本文中から三字で抜き出しなさい。

問七 傍線部5 「宮下先生がぐいぐい攻めていく」とあるが、ここから分かる宮下先生の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 吹奏楽部で音楽性もある水野早紀が、指揮者に立候補したことに興奮する気持ち。  
イ 音楽性はないが吹奏楽部に所属する水野早紀に指揮者をしてほしいという気持ち。  
ウ 吹奏楽部で指揮者を務めている水野早紀に指揮者を任せれば安心だという気持ち。  
エ はやく授業を進めるために、水野早紀を指揮者に決めてしまいたいという気持ち。

問八 次の文章は、本文中の【A】～【E】のどこにありますか。最も適当な箇所を記号で答えなさい。

理由は明白。

晴美はオンチだつたのだ。

保育園の学芸会のときに、六歳年の離れたお兄ちゃんに言われたひとことが、実は今でもトラウマになっている。演目のひとつに合唱があつた。学芸会の帰り道、お母さんが合唱をほめてくれると、お兄ちゃんが笑いながら言つた。

「晴美、お前つてめちゃ声でかいから、すぐ分かつたぞ」

「ここまで良かつたのだが、

「ひとりだけアルト歌つてたのか？」

と茶々を入れてきた。

「アルトつてなあに？」

「低い音」

「ん？」

晴美が首をひねると、お兄ちゃんは調子に乗つた。

「晴美、音ずーれずれ。そういうの、オンチつて言うんだぞ」

すると、まわりにいた園児たちがオンチの意味は分からぬが、ウンチと似た言い回しが面白かつたのか、

「オンチ、オンチー」

とはやしたてた。晴美はわつと泣き出した。その後、お兄ちゃんはお母さんにこつびどくしかられたが、園ではしばらくオンチとからかわれ続けた。

保育園からの幼なじみは今でも何人かいるけれど、もうそんなことは誰も覚えていないだろう。小学校に上がつてからこのかた、いつも結構気をつけて歌つてきた。

家族でカラオケに行くと、お兄ちゃんがにまにま笑つているときがあるけれど、学校ではオンチと言われたことはない。だから、だいじょうぶなはず。

問九

傍線部6 「胸に開いてしまった小さな穴がしくっと痛んだ」とあるが、この部分について先生と生徒たちが話をしています。

この会話を読んで、1 2 3 4 にあてはまる言葉として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

先生.. 「胸に開いてしまった穴」が痛むとはどういうことでしよう?

生徒A..

晴美は、「早紀の声の矢のせいなのか」と言つてているので、胸が痛いのは早紀の言動が理由だと思います。

「早紀の声」を「矢」にたとえているので、鋭さを感じます。

早紀が指揮者をすると返事をして、指揮者が決まつてしまつたので胸に穴が開いたのです。

だから、その穴が痛むのは、1 ということだと思います。

生徒B..

うーん、私は、晴美は、早紀が指揮者をすると返事をしてもしなくとも、

2 のではないかと思います。

生徒A..

どうしてそう考えたのですか?

生徒B..

晴美は、ずっと迷つていて、立候補したいと思いながら、立候補する勇気が出ていません。

だから、「指揮者が決まつてしまつたこと」ではなくて、2 「自分」のせいで胸が痛むのだと思います。

生徒A..

これまで自信に満たされていて自分の中に、3 「自分」が存在し始めたんです。

生徒B..

なるほど。確かに、それは自分の中に穴が開いた感じがしますね。

生徒B..

はい。だから、私は、その穴が痛むのは、4 ためだと思います。

ア オイウ エオ  
自分の弱さに気づいた  
自分に立候補することができなかつた  
やりたいことをやりたいと言えない  
立候補しなかつたことを後悔している

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。なお、句読点は全て一字に数えます。

結局、大人になるとはどういうことなのでしょうか。すでに色々述べきましたが、一八歳という年齢を意識しつつ、ここで改めてその本質について考えてみたいと思います。大人になるとは、年齢や身体的な成長だけでなく、精神的な成熟を含むとしたら、一八歳でも精神的成熟が可能だということになります。

逆にいうと、大人として求められる精神的な成熟とは、一八年も生きていれば身につけることができるということです。いや、<sup>1</sup>その程度の成熟で足りるといった方が正確でしようか。なぜなら、多くの人は一八歳で精神的に成熟するなんて無理だと思われているはずだからです。

みんながまだ一八歳に達していない年齢なら当然、そんなこと想像もできないでしよう。あるいは、一八歳以上の人にとってもそうです。たとえば私は五一歳ですが、まだ自分が精神的に成熟しているなどとは思えません。

これは私がまだ一八歳に達していない年齢ながら、誰に聞いてもそんなふうに答えます。試しに周りの大人、というか一八歳よりも年齢が上の人に聞いてみてください。驚くことに、これは七〇歳であろうと九〇歳であろうと、実は何歳になつても<sup>2</sup> そう答えるものなのです。

かつて私も、人生の節目節目で、常に自分がまだ精神的に成熟していないこと、そして早く成熟しなければならないということを感じ続けてきました。成年に達した時、社会に出て働き始めた時、結婚を前にした時、教師になった時、役職が上がっていくにつれて……。

「A」まだまだだと感じてしまうのです。

それでは誰も精神的成熟を達成し得ないのかというと、そうではありません。本当はどこかの時点で成熟しているのですが、自分では<sup>3</sup> そうとは気づかないものなのです。人からいわれても、まだ信じられないでしよう。それほど精神的成熟というものはわかりにくいものなのです。

そのわかりにくさの理由は、定義ではなく、その<sup>4</sup> 不安定性にあります。精神的成熟の定義自体はそんなに難しいものではなくて、誰もが「あの人は精神的に成熟している」と感じことがあるように、割とわかりやすいものです。

わかりやすい表現をすると、「あの人、大人だなあ」という言葉になるでしようか。これは他者に配慮できる人だとか、世の中全体のことを考えている人、怒りを抑えることができる人などに對して使うと思います。

ア そういうことができる人が精神的に成熟しているわけです。いたしかに子どもはわがままで、世の中のことなんて考えておらず、感情に任せて怒つたりするものです。そんなことなら一八歳でもなんとかなりそうですし、ましてや五〇歳も過ぎれば身につけていそうですよね。

本当にそうでしょうか?<sup>5</sup> 胸に手を当てて考えてみるとわかるのですが、何歳であつてもこれができないこともあるのです。私だってわがままになることがありますし、世の中なんてどうでもいいと思う

こともあります。感情的になるのは **日常茶飯事**<sup>a</sup> です。毎日ではあります。しかし、大人と称される人も、時には子どものような振る舞いや考え方をしてしまうことがあるということです。これが先ほど書いた不安定性です。つまり、人間というのは、精神的に成熟したとしても、時に未成熟になってしまいます。その不安定性ゆえに、私たちはいつまでも大人になつたと自覚することができないでいるのです。

だから一八歳でも大人になれるけれど、常にそうでいられるわけではないということです。だから私たちは常に意識しておかなければならぬのです。大人になること、そして大人としてふるまうべきことを。

私たちを不安定にさせる原因はいったい何なんでしょうか？ まず思い浮かぶのは感情だと思います。人間には感情があります。だから時に怒つてしまつたり、落ち込んだりするわけです。それは自然なことでもあるので、ある程度は問題ないでしょう。でも、程度を超えると、大人の名称を返上しなければならない事態にもなりかねません。では、どうすれば感情をコントロールできるのか。それは社会うまく距離をとることだと思います。私たちの感情を刺激するのは、私たちの外部にある要因です。たとえば皆さんはどんな時に怒りますか？ 人からバカにされた時？ 学校がおかしな校則を押し付けてきた時？

それらはいずれも社会からの影響と表現することができるでしょう。私たちは常に誰か別の人たちと一緒に暮らし、その人たちとの関係の中で様々なことをしています。そういう関係性を社会と呼ぶので

ませんが。

いかがでしようか？ 大人と称される人も、時には子どものような

はポリス的動物だ」といいました。  
ポリスというのは、古代ギリシアの都市国家のことです。つまり社会だと思つてもらつていいでしょう。アリストテレスがいわんとしたのは、人間は社会の中でお互いに依存し合つて生きていかざるを得ない存在だということです。それが他の動物とは違う点です。他の動物の場合、群れをなしているものもあれば、そうでない一匹オオカミ的なものもいます。それに群れをなしても別に人間ほど複雑高度な

哲学者アリストテレスの言葉としても知られています。彼は「人間は人間の場合は、その高度な**7**関係を構築しているわけでもありません。  
**7**関係のおかげで一人ではできないことをし、助け合い、高度な文明を築き上げることができたわけですが、そのせいで過度に人間関係が複雑になつてしまつたという負の側面もあります。

**7**関係は、自分次第でどうにもならないことが増えるとすることもあります。そうなると、他人次第の部分が出てきて、自分の思い通りにならないと腹が立つのです。あるいは落ち込むのです。それが原因で精神の成熟が不安定になつてしまつというわけです。

だから感情をコントロールして、できるだけ安定した状態でいるためには、他者との距離をうまくとり続ける必要があるのです。それが私のいう社会との距離をうまくとるということの意味です。誰かと、あるいは集団とぎくしやくしたなと思ったら、少し距離をとつて冷静になつてみる。そういうことがうまくできる人が大人なのです。

人間は基本的に個々人がバラバラの存在です。でも、一人ひとりは弱い存在なので、他者と力を合わせてより善く生きて行こうとします。

この **塩梅** はとても難しくて、だからといって常にみんなといればいいかというとそうでもないのです。一人でいる時と、みんなでいる時のバランスをうまくとりながら、時にくつつき、時に離れ、それを繰り返すことが求められます。子どもの時はいつもみんなといたいと

思いがちです。でも、だんだん独立していく。それでいて、必要に応じてうまく一緒に行動する。それが大人の生き方だと思うのです。

（小川 仁志『中高生のための哲学入門——「大人」になる君へ』）

問一 二重傍線部 **a** 「日常茶飯事」 **b** 「塩梅」の本文中における意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

**a** 「日常茶飯事」

- ア 人間の本能であること
- イ 避けられないこと
- ウあたりまえのこと
- エ ありふれたこと

**b** 「塩梅」

- ア きっかけのつかみ方
- イ 物事のほどよい
- ウ 行動の基準
- エ 協力の方法

問二 空欄「**A**」「**B**」にあてはまる言葉として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ そのうえ ウ でも エ ところで

問三 傍線部 **1** 「その程度の成熟で足りる」とあるが、なぜ「その程度の成熟で足りる」のですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大人になって精神的に成熟することが求められるのであり、大人になる前に成熟することは求められないから。
- イ 精神的に成熟するには長い年月が必要であり、若者に精神的成熟を求めるのは、もともと無理な話であるから。
- ウ 今の若者ははやく精神的に成熟する傾向にあり、十八歳なら大人としての精神的成熟は十分達成しているから。
- エ 精神的に成熟することが大切なではなく、成長したいと思う気持ちの方が大人として求められることだから。

問四 傍線部 **2** 「そう答えるものなのです」とあるが、どのように「答える」のですか。本文中から抜き出して答えなさい。

問五 傍線部3 「そうとは気づかないものなのです」とあるが、どういうことに「気づかない」のですか。解答欄に合うように本文中から十五字以上二十字以内で抜き出して答えなさい。

問六 傍線部4 「不安定性」とは、人間のどのような性質を述べていますか。本文中の語句を用いて、二十五字以上三十字以内で答えなさい。

問七 傍線部5 「本当にそうでしょうか?」とあるが、「そう」が指している箇所を波線部ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

問八 傍線部6 「人間はポリス的動物だ」とは、どういうことですか。本文中から四十字以内で探し、最初と最後の五字ずつを抜き出して答えなさい。

問九 空欄 7 にあてはまる言葉を、本文中から抜き出して答えなさい。

問十 筆者の主張と同じものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間には感情があるために、何歳になつても時に怒つたり落ち込んだりするが、程度を超えないように大人としてのふるまいを忘れないように常に心がけなければならない。
- イ 生きていると自分の思い通りにならないこともあるので、ある程度精神的に不安定になつてしまふことはしかたがないのだと覺悟することが、大人になるということである。
- ウ 精神的に成熟するには時間がかかるが、意識して大人になろうとすることで精神的成熟を達成することができるから、はやく成熟しようと意識することが大切なである。
- エ 大人になつた際に精神的に成熟しているには、どのように成長してきたかが問われることになるので、成人するまでに感情をコントロールできるようになる必要がある。
- オ 相手あるいは集団との関係によつて感情が不安定になつたら、距離をとつて冷静になるなど、他者との距離をうまくとることができるのが、大人の生き方である。

次の文章は、鎌倉幕府の執権であつた北条時頼（本文中では「相模守時頼」ときより）の母である松下禅尼が、時頼を自分の屋敷へ招待する準備をしている話です。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、句読点は全て一字に数えます。

守を入れかみ  
守をい招待かみうけ

---

まだらに候ふも見苦しくや」とかさねて申されければ、  
まだらになつておりますのも見苦しくないでしか

申さるる事ありけるに、すすけたる明かり障子のやぶれ  
申し上ひぬことがあつたとき

まだらに候ふも見苦しくや」とかさねて申されければ、  
まだりじなつておりおののも見苦しくなうですか  
「尼も、後はさはさはと張りかへんと思へども、今日ばかり  
後にはわいぱつと 張り替へよつと 悪いわれど

ばかりを、禪尼手づから、小刀して A 切りまはしつつ張られ  
だけを      自分の手で      あちこちの紙を切って(破れに)お張りに  
ければ、兄の 城介 義景、その日のけいめいして 候 ひけるが、  
なつたので(尼の)兄の  
世話役を務めてそばに控えていたが

「給はりて、なにがし男に張らせ候はん。さやうの事に  
（それはいただいて 張りせましよつ そのようないことに）

心得たる者に候ふ」と申されければ、「その男、尼が細工に心得のある者です

よもまさり侍らじ」とて、なほ一間づつ張られけるを、  
まさかまさつてはこないでしよう やはり一粹すつ

義景、「皆を張りかへ候はんは、はるかにたやすく候ふべし、

全部を張り替えますほうが

3  
誠に、ただ人にはあらざりけるとぞ。

(兼好『徒然草』第百八十四段)

〔注〕

- |     |       |   |                                      |
|-----|-------|---|--------------------------------------|
| * 1 | 相模守時頼 | ： | 鎌倉幕府の第五代執権、北条時頼のこと。                  |
| * 2 | 禪尼    | ： | 「相模」は今の神奈川県の一部で、鎌倉幕府が置かれた地。          |
| * 3 | 明かり障子 | ： | 仏門に帰依した女性。尼僧。                        |
| * 4 | なにがし男 | ： | 木枠に紙を貼つて空間を仕切る建具。下図参照。               |
|     |       | ： | 人物の名前がはつきりわからないときの言い方。ここでは家来のだれかのこと。 |

問一　波線部A「切りまはし」、B「用ゐる」の読みをすべてひらがな（現代仮名遣い）で書きなさい。

問二　文中の会話文I～IIIは、それぞれ誰のせりふですか。組み合わせとして適當なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |    |    |       |     |       |
|---|---|----|----|-------|-----|-------|
| ア | I | 禪尼 | II | なにがし男 | III | 義景    |
| イ | I | 義景 | II | 禪尼    | III | 禪尼    |
| ウ | I | 義景 | II | なにがし男 | III | なにがし男 |
| エ | I | 禪尼 | II | 義景    | III | 禪尼    |

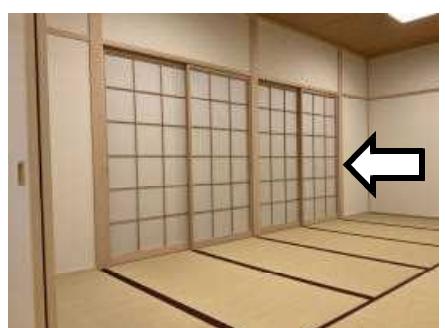
問三　傍線部1「かさねて申されければ」とあるように、義景は禪尼をなんとかして説得しようとしています。

(1) 義景がやめてほしいと思っている禪尼の行動を、本文中から四十五字以内で探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

(2) (1)で答えた禪尼の行動の代わりに義景が提案したことを、現代の言葉で二十字以上三十字以内で説明しなさい。

問四　空欄 **2** に入る最も適當な語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 儂約 イ 謙虚 ウ 親切 エ 丁寧



問五 傍線部3 「誠に、ただ人にはあらざりけるとぞ」は、作者の感想です。作者はどんなことに感心しているのか、次のようにまとめました。

空欄 I IV に入る言葉を、あとの条件に従つて答えなさい。

I は、II を理解しており、III に IV と伝えようとしたこと。

条件 I は、本文から五字以内で抜き出して答える。

IV III II I は、本文から五字以上十字以内で抜き出して答える。

十字以上十五字以内で現代の言葉で答える。

IV は、二十字以上二十五字以内で現代の言葉で答える。

# 國語解答用紙

1

A horizontal row of 12 empty rectangular boxes, each with a thin black border. The boxes are evenly spaced and extend across the width of the page.